



2022.6.12

ニリンソウ自生地 保護活動情報

赤塚公園ニリンソウを守る会

akatsukanironso@gmail.com

都立赤塚公園
サービスセンター
03-3938-5715

編集責任：運営サポーター／木村



Since 1982 ニリンソウ保護活動 40周年

赤塚公園ニリンソウを守る会 活動予定

7月10日(日) 10:00 大門観察台に集合

- ◎夏模様のニリンソウ自生地観察と簡単な草取り
- ◎〈続〉ロープ柵内の植物調べをゲーム感覚でやろう
- ◎どんぐりまつりの打ち合わせ

8月はお休み

9月11日(日) 10:00 大門観察台に集合

- ◎秋の自生地手入れ計画立案のための現場での話し合い+簡単な手入れ+どんぐりまつりの練習

※問合せは左記赤塚公園サービスセンターへ

※雨天中止 * 予定変更の場合あり

やっぱり人の手で行う草刈りも必要

6/12はヤブミョウガの抜取りを実施

6/12は久しぶりの例会でした。18名のみなさんが集まってくれて予定のプログラムをこなすことができました。



最初のテーマは「ヤブミョウガの抜取り」なのですが、下の写真左の黄円内がヤブミョウガで、その左の赤円内の細長い葉の植物は東京都の準絶滅危惧種のヤナギイノコヅチで抜いてはならない種なのです。機械での一斉刈り取りが適さないのがニリンソウ自生地なのです。

昨年のヤブミョウガは茂りすぎていたので、センターが業者に頼んで行いましたが、今年はボランティアが挑戦しました。下の2枚が抜き取り前と後の比較です。

もちろん、ヤブミョウガは根絶対象の種ではありません。適度に残すように配慮しています。



準絶滅危惧種が豊富な大門自生地



自生地手入れ作業は、残すべき植物を見極めて取り掛かります。左の写真上からハグロソウ、ヤナギイノコヅチ、イヌシヨウマが元気に伸びていました、夏から秋の終わりまで右側に添えたような花が咲きます。このうち、ハグロソウとヤナギイノコヅチは東京都の準絶滅危惧種ですから、それにキツネノカミソリを加えて、さらに春に咲くニリンソウとヤマブキソウを加えると、ここには5種もの準絶滅危惧種が普通に観察されるのです（そのほか、赤塚公園全域ではハンゲシヨウ、キツネノマゴ、キンラン、ギンランが準絶滅危惧種に指定されています）。

もっとも、林の保護活動は特定の希少な種だけを残して育てるのが目的ではありません。茂りすぎると他の植物の邪魔になる種はご遠慮対象としていますが、出来るだけ多くの種が生きやすいように考えながら行っています。今年は春からヤブニンジンが大繁殖したり、6/12の作業ではこの数年

過繁殖気味だったウバユリがあまり見られなかったりと、林の様相は毎年変化します。それを見極めながらの保護活動です。

1㎡の区画の中に何種の植物が生えているか？ 「植物調べ」をしました

右の写真のように一定の区画の中にどんな生き物が生きているかを調べるのは調査の基本で、専門家も行っています。

6/12の作業後はアマチュア流儀で、いくつかの区画をつかって植物を調べて記録しました。漫然と地面を眺めているよりもはるかによく植物を知ることができます。

5つの班をつかって、調べた結果を発表し合いましたが、擬木柵の向こう側では12種の植物を確認できた区画があったのに対して、ロープ柵が張ってある最近の保護エリアでは5～7種ほどにとどまりました。やはり、40年間にわたって保護活動が行われてきたところでは生えている植物の種類は豊かでした。でも、どの区画でも明らかな園芸種など外部から持ち込まれた種は観られませんでしたが、きちんと管理すれば、ロープ柵内も次第により豊かに植物が広がる草原になってくるでしょう。



7月の例会では今回より手際よく、より正確に出来るように再チャレンジします。